

タイトル「2024年度大学院危機管理学研究科(公開用)」、フォルダ「大学院危機管理学研究科」シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー			
科目名	レピュテーションリスク実務特講		
担当教員	勝股 秀通		
対象学年	2年	開講学期	前期
曜日・時限	月 3		
講義室	1407	単位区分	選,選必
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	—		
科目中分類	修士		
科目小分類	講義・発展		
科目の位置付け (開発能力)	<p>■ DPコード・学修のゴールを示すディプロマポリシー(ぼとの関連)</p> <p>DP1[意欲・経験・適性]災害, テロ, 国際紛争等, 複雑化した現代社会における様々な危機に対する高い関心と深い洞察 (25%)</p> <p>DP2[学識・専門技能]災害, テロ, 国際紛争等, 複雑化した現代の様々な危機を分析し解決するための, 法学, 政治学, 国際関係学等の社会科学の知見を統合した応用的な知識と技能 (25%)</p> <p>DP3[思考力・判断力・表現力]客観的な情報やデータをもとに論理的に考察し説得的に表現する力 (25%)</p> <p>DP4[主体性・多様性・協調性]多様な価値観や立場を尊重しつつ, 自らの明確な考えのもとに, 他者とコミュニケーションを確立する能力 (25%)</p>		
教員の実務経験	<p>担当教員は長年、全国紙の新聞記者として、警察や裁判所などの司法当局、防衛省と陸海空自衛隊、さらには様々な企業や組織取材する中で、各々の情報発信（広報）の場面に立ち会い、その優劣はもとより、情報を発信することに対する意識の違いを目の当たりにしてきました。そうした経験に基づき、企業や組織が不祥事やトラブル、事故、災害などのリスクに直面した際に必要とされる対応、社会の共感を得るために必要な手立てについて実践的な視点から講義を行います。</p> <p>企業や組織が情報発信する広報においては、企業や組織はマスメディアとの関係を日ごろからどのように構築し、マスメディアは不祥事や事故の際にどのような行動を取るかということ、広報の担当者は把握しておく必要があります。特に2回、3回、4回、5回、6回の授業及び8回、9回、10回、11回の授業では、実務経験に基づく具体的な場面などを説明するとともに、企業とメディア双方の視点を組み合わせながら進めていきます。</p>		
成績ターゲット区分			
科目概要・キーワード	<p>授業形態は講義形式に、一部演習を取り入れます。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完、代替するためオンライン授業を取り入れる場合があります。</p> <p>■キーワード</p> <p>企業の社会的責任 ビジネスと人権 炎上</p>		
授業の趣旨	<p>■副題</p> <p>人や組織は起こしたことで非難されるのではなく、起こしたことへの対応を誤った時に非難される。</p> <p>■授業の目的</p> <p>昨今の企業等の不祥事対応を見ていると、副題で示した通りの展開が繰り返されている。本講では、危機管理学の実践的な側面を学修するため、様々な危機や課題等に直面した企業が、自らの社会的責任を果たすことなく信用を失墜させるに至る、いわゆる「レピュテーション（評判・価値）リスク」の問題を取り扱う。主に1990年代からこれまでに発生した具体的な事例を取り上げ、企業等が取った対応を検証するとともに、その対応の問題点を抽出し、どうすればリスクを回避することができたのかといった解決策を、議論を通じて探りだすことを目的とする。</p> <p>■授業のポイント</p> <p>レピュテーションを低下させ、喪失させたとき、企業（組織）はどのような末路をたどるのか。この授業では、危機における企業の社会的責任を理解した上で、様々に変化、新たに出現するリスクに対してどのような対応を取れば、レピュテーションの低下、喪失を防ぐことができるのかについて、具体的な事例を検証しながら解決策を導き出すことを目指す。</p>		
総合到達目標	<p>■「危機」は、企業・団体・自治体などどのような組織にも突然訪れる。その時、状況を冷静に把握、判断し、危機管理広報として企業の評価を低下させない対応を取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業・団体・自治体など個々の組織にとってのリスク（潜在危機）を洗い出すことができる。 洗い出したリスクを予防、抑制することができる。 SNS時代における情報の収集と分析の重要性を理解することができる。 危機に直面した場合の対応マニュアルを作成することができる。 企業のホームページやオウンドメディアを通じて、利害関係者に的確な情報を発信することができる。 プレスリリースの作成など危機におけるメディア対応に取り組むことができる。 マスコミを通じて情報を発信することの責任の重さを意識することができる。 		
成績評価方法	<p>■授業内の発表など（75%）（DP-1,2,3,4）</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業の社会的責任についての理解（第2回、第3回） 人権問題への対応の必要性について発表（第4回、第5回、第6回） 内部通報制度の必要性についての理解と発表（第7回） 炎上事例の研究についての発表（第8回、第9回） 企業や個人が直面する新たなリスクへの理解と事例研究（第10回、第11回、第12回、第13回、第14回） <p>・まとめの試験（第15回） （評価の観点）</p> <p>発表する内容についての理解の有無、及び表現力とコミュニケーション能力について総合的に評価します。なお、15回目の試験は事例研究に基づく発表形式とします。 （フィードバックの方法）</p> <p>各自の発表後、授業時間内に評価、議論します。</p>		

	<p>■授業参加（25%）（DP-1,2,3,4）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者に対するコメントや意見交換、問いの立て方（評価の観点） <p>発表者に気づきや改善を促すようなものであるかを評価します。（フィードバックの方法）</p> <p>授業時間内に適宜評価、議論します。</p>																		
履修条件	特になし																		
履修上の注意点	毎回、授業で取り上げる事例について、新聞報道等を中心にしっかりと下調べして授業に臨むこと。																		
授業内容	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td> <p>①授業テーマ ガイドランス・レピュテーションの低下、喪失の恐ろしさ</p> <p>②授業概要 レピュテーションの低下、喪失は企業等が直面する最大のリスク（危機）と認識されている。ガイドランスでは、その恐ろしさを理解するため、企業が破綻するに至った「雪印食品の偽装牛肉事件」、世界最大のエアバッグメーカー「タカタ」の事例を取り上げ、レピュテーション喪失の過程を検証する。</p> <p>③予習（120分） 「雪印食品の偽装牛肉事件」と「タカタ」の破綻に至るまで過程を、当時の新聞記事などをもとに調べ、問題点を考えておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認し、レピュテーションリスクについて、自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p> </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td> <p>①授業テーマ 企業の社会的責任（CSR）とは何か（1）</p> <p>②授業概要 企業の社会的責任については、幅広く解釈されているが、ガイドランスで扱った雪印食品やタカタの事例に加え、2023年に不正が顕在化した「ビッグモーター」の記者会見対応を取り上げ、不正の発覚など自ら危機を招いた企業の社会的責任について考える。</p> <p>③予習（120分） 「ビッグモーター」社の不適切な保険金請求事件について、問題発覚から記者会見、その後のピ社を取り巻く社会情勢について調べ、問題点を考えておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認し、「企業の社会的責任とは何か」について、事例に基づき、自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p> </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td> <p>①授業テーマ 企業の社会的責任（CSR）とは何か（2）</p> <p>②授業概要 長く続いたコロナ禍で、そして度重なる自然災害で、社会的責任を果たしている企業は少なくない。在宅勤務という緊急事態に対応し、文具メーカー「シャチハタ」は電子印鑑の決済サービスを無料開放し、災害時、食料品メーカーや飲食サービス各社は被災者への食料調達に尽力している。その逆に、相反する行為に及んだ企業も多い。それらに対比しながら、社会でクライシスが発生した際における企業の社会的責任について考える。</p> <p>③予習（120分） コロナ禍や災害時に企業が果たした社会貢献活動、及び不正行為についても調べ、具体的内容について発表できるようにしておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認し、企業が果たすべき社会的責任、そして期待されている社会的責任について、事例を用いて自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p> </td> </tr> <tr> <td>4</td> <td> <p>①授業テーマ ビジネスと人権（1）</p> <p>②授業概要 営利を目的とした企業活動においても、社会の動きに耳を澄ませ、敏感であることは必須である。それを如実に示した事例が、ユニクロを展開する「ファーストリテイリング」社製の綿シャツが米国で輸入を差し止められた事案である。強制労働など人権侵害によって生産された疑いがあるとの理由だが、ファ社はこの事態にどう対応し、広報活動を通じてどのような措置を講じてきているのかを調べ、ビジネスと人権について考える。</p> <p>③予習（120分） 2021年に人権侵害を指摘されたファ社の対応の推移を調べ、問題点やその後の改善点などを危機管理広報の視点から考えておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認し、企業が危機と向き合い、情報を発信する難しさと大切さを自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p> </td> </tr> <tr> <td>5</td> <td> <p>①授業テーマ ビジネスと人権（2）</p> <p>②授業概要 国連が2011年に「ビジネスと人権に関する指導原則」を公表して以来、サプライチェーン（供給網）における人権侵害も企業にとって見過ごせない事態となっている。そうした危機に直面した「味の素」と「花王」のケースを検証し、企業の人権への取り組みについて理解する。</p> <p>③予習（120分） 2014年にタイの水産加工場で劣悪な労働環境が指摘された「味の素」のケースと、インドネシアの農園で児童労働が指摘された「花王」のケースを調べ、その後の対応についてまとめておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認するとともに、多くの企業が自社サイトに人権問題専用コーナーを設け、消費者に対し、具体的な取り組みを公表していること理解し、その目的について考えをまとめておく。</p> </td> </tr> <tr> <td>6</td> <td> <p>①授業テーマ ビジネスと人権（3）</p> <p>②授業概要 2019年に職場でのパワーハラスメントを禁止する法律が制定されて以降、企業では相談窓口を設置するなどパワーハラ根絶に向けた取り組みを進めている。法制定のきっかけとなった「電通」の女性新入社員の過労死事案、「トヨタ自動車」の男子社員の自殺事案、さらに元女性自衛官が実名で告発（2022年）した陸上自衛隊のセクハラ事案を検証し、企業（組織）が取り組まなければならない目的と意味について考える。</p> <p>③予習（120分） 授業で扱う3事例について、当時の新聞報道などをもとに調べ、ハラスメントが企業や組織に与えた影響について発表できるようにしておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認し、ハラスメントが企業のレピュテーションに及ぼす影響について、自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p> </td> </tr> <tr> <td>7</td> <td> <p>①授業テーマ 内部告発と内部通報制度</p> <p>②授業概要 不祥事の発生を防ぐことが企業のレピュテーションを守る手立てであり、そのため的手段として2006年に「公益通報者保護法」が成立した。しかし、東京五輪汚職事件に問われた「KADOKAWA」をはじめ、23年に発覚した「ダイハツ工業」の品質不正問題、「ビッグモーター」の保険金不正請求のケースでは、内部通報制度が機能不全に陥っていることが明らかになっている。そうした具体的事例における不正発覚に至る過程を検証し、共通する企業内部の諸問題に加え、内部通報制度の課題と問題点を考える。</p> <p>③予習（120分） 授業で取り上げる不正事案について、新聞報道などをもとに調べ、発覚に至る経緯を理解しておくこと。特に「KADOKAWA」のケースについては、調査報告書及び公判廷における供述等をよく読んでおくこと。</p> <p>④復習（120分） 公益通報者保護法の課題と企業の取り組みの現状について、自分の意見をまとめておく。</p> </td> </tr> <tr> <td>8</td> <td> <p>①授業テーマ “炎上”事例から（1）</p> <p>②授業概要 2023年には回転寿司チェーンで撮影したとみられる迷惑動画が拡散、炎上するケースが相次いだ。被害企業は動画の拡散を認知してからどのような対応をとっているのか。しょうゆ差しを舐めた少年を提訴（その後取り下げ）した「スシロー」のケースを事例に、SNSや生成AI（人工知能）によって危機の範囲が広がる中で、レピュテーションリスク回避を目的とする企業の対応について考える。</p> <p>③予習（120分） 「スシロー」の迷惑動画への対応、及び同社がSNS上で批判されていた事例を含めて、発表できるようにしておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認し、SNS時代における企業のリスクの幅広さについて、自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	1	<p>①授業テーマ ガイドランス・レピュテーションの低下、喪失の恐ろしさ</p> <p>②授業概要 レピュテーションの低下、喪失は企業等が直面する最大のリスク（危機）と認識されている。ガイドランスでは、その恐ろしさを理解するため、企業が破綻するに至った「雪印食品の偽装牛肉事件」、世界最大のエアバッグメーカー「タカタ」の事例を取り上げ、レピュテーション喪失の過程を検証する。</p> <p>③予習（120分） 「雪印食品の偽装牛肉事件」と「タカタ」の破綻に至るまで過程を、当時の新聞記事などをもとに調べ、問題点を考えておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認し、レピュテーションリスクについて、自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p>	2	<p>①授業テーマ 企業の社会的責任（CSR）とは何か（1）</p> <p>②授業概要 企業の社会的責任については、幅広く解釈されているが、ガイドランスで扱った雪印食品やタカタの事例に加え、2023年に不正が顕在化した「ビッグモーター」の記者会見対応を取り上げ、不正の発覚など自ら危機を招いた企業の社会的責任について考える。</p> <p>③予習（120分） 「ビッグモーター」社の不適切な保険金請求事件について、問題発覚から記者会見、その後のピ社を取り巻く社会情勢について調べ、問題点を考えておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認し、「企業の社会的責任とは何か」について、事例に基づき、自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p>	3	<p>①授業テーマ 企業の社会的責任（CSR）とは何か（2）</p> <p>②授業概要 長く続いたコロナ禍で、そして度重なる自然災害で、社会的責任を果たしている企業は少なくない。在宅勤務という緊急事態に対応し、文具メーカー「シャチハタ」は電子印鑑の決済サービスを無料開放し、災害時、食料品メーカーや飲食サービス各社は被災者への食料調達に尽力している。その逆に、相反する行為に及んだ企業も多い。それらに対比しながら、社会でクライシスが発生した際における企業の社会的責任について考える。</p> <p>③予習（120分） コロナ禍や災害時に企業が果たした社会貢献活動、及び不正行為についても調べ、具体的内容について発表できるようにしておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認し、企業が果たすべき社会的責任、そして期待されている社会的責任について、事例を用いて自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p>	4	<p>①授業テーマ ビジネスと人権（1）</p> <p>②授業概要 営利を目的とした企業活動においても、社会の動きに耳を澄ませ、敏感であることは必須である。それを如実に示した事例が、ユニクロを展開する「ファーストリテイリング」社製の綿シャツが米国で輸入を差し止められた事案である。強制労働など人権侵害によって生産された疑いがあるとの理由だが、ファ社はこの事態にどう対応し、広報活動を通じてどのような措置を講じてきているのかを調べ、ビジネスと人権について考える。</p> <p>③予習（120分） 2021年に人権侵害を指摘されたファ社の対応の推移を調べ、問題点やその後の改善点などを危機管理広報の視点から考えておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認し、企業が危機と向き合い、情報を発信する難しさと大切さを自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p>	5	<p>①授業テーマ ビジネスと人権（2）</p> <p>②授業概要 国連が2011年に「ビジネスと人権に関する指導原則」を公表して以来、サプライチェーン（供給網）における人権侵害も企業にとって見過ごせない事態となっている。そうした危機に直面した「味の素」と「花王」のケースを検証し、企業の人権への取り組みについて理解する。</p> <p>③予習（120分） 2014年にタイの水産加工場で劣悪な労働環境が指摘された「味の素」のケースと、インドネシアの農園で児童労働が指摘された「花王」のケースを調べ、その後の対応についてまとめておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認するとともに、多くの企業が自社サイトに人権問題専用コーナーを設け、消費者に対し、具体的な取り組みを公表していること理解し、その目的について考えをまとめておく。</p>	6	<p>①授業テーマ ビジネスと人権（3）</p> <p>②授業概要 2019年に職場でのパワーハラスメントを禁止する法律が制定されて以降、企業では相談窓口を設置するなどパワーハラ根絶に向けた取り組みを進めている。法制定のきっかけとなった「電通」の女性新入社員の過労死事案、「トヨタ自動車」の男子社員の自殺事案、さらに元女性自衛官が実名で告発（2022年）した陸上自衛隊のセクハラ事案を検証し、企業（組織）が取り組まなければならない目的と意味について考える。</p> <p>③予習（120分） 授業で扱う3事例について、当時の新聞報道などをもとに調べ、ハラスメントが企業や組織に与えた影響について発表できるようにしておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認し、ハラスメントが企業のレピュテーションに及ぼす影響について、自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p>	7	<p>①授業テーマ 内部告発と内部通報制度</p> <p>②授業概要 不祥事の発生を防ぐことが企業のレピュテーションを守る手立てであり、そのため的手段として2006年に「公益通報者保護法」が成立した。しかし、東京五輪汚職事件に問われた「KADOKAWA」をはじめ、23年に発覚した「ダイハツ工業」の品質不正問題、「ビッグモーター」の保険金不正請求のケースでは、内部通報制度が機能不全に陥っていることが明らかになっている。そうした具体的事例における不正発覚に至る過程を検証し、共通する企業内部の諸問題に加え、内部通報制度の課題と問題点を考える。</p> <p>③予習（120分） 授業で取り上げる不正事案について、新聞報道などをもとに調べ、発覚に至る経緯を理解しておくこと。特に「KADOKAWA」のケースについては、調査報告書及び公判廷における供述等をよく読んでおくこと。</p> <p>④復習（120分） 公益通報者保護法の課題と企業の取り組みの現状について、自分の意見をまとめておく。</p>	8	<p>①授業テーマ “炎上”事例から（1）</p> <p>②授業概要 2023年には回転寿司チェーンで撮影したとみられる迷惑動画が拡散、炎上するケースが相次いだ。被害企業は動画の拡散を認知してからどのような対応をとっているのか。しょうゆ差しを舐めた少年を提訴（その後取り下げ）した「スシロー」のケースを事例に、SNSや生成AI（人工知能）によって危機の範囲が広がる中で、レピュテーションリスク回避を目的とする企業の対応について考える。</p> <p>③予習（120分） 「スシロー」の迷惑動画への対応、及び同社がSNS上で批判されていた事例を含めて、発表できるようにしておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認し、SNS時代における企業のリスクの幅広さについて、自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p>
回	内容																		
1	<p>①授業テーマ ガイドランス・レピュテーションの低下、喪失の恐ろしさ</p> <p>②授業概要 レピュテーションの低下、喪失は企業等が直面する最大のリスク（危機）と認識されている。ガイドランスでは、その恐ろしさを理解するため、企業が破綻するに至った「雪印食品の偽装牛肉事件」、世界最大のエアバッグメーカー「タカタ」の事例を取り上げ、レピュテーション喪失の過程を検証する。</p> <p>③予習（120分） 「雪印食品の偽装牛肉事件」と「タカタ」の破綻に至るまで過程を、当時の新聞記事などをもとに調べ、問題点を考えておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認し、レピュテーションリスクについて、自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p>																		
2	<p>①授業テーマ 企業の社会的責任（CSR）とは何か（1）</p> <p>②授業概要 企業の社会的責任については、幅広く解釈されているが、ガイドランスで扱った雪印食品やタカタの事例に加え、2023年に不正が顕在化した「ビッグモーター」の記者会見対応を取り上げ、不正の発覚など自ら危機を招いた企業の社会的責任について考える。</p> <p>③予習（120分） 「ビッグモーター」社の不適切な保険金請求事件について、問題発覚から記者会見、その後のピ社を取り巻く社会情勢について調べ、問題点を考えておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認し、「企業の社会的責任とは何か」について、事例に基づき、自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p>																		
3	<p>①授業テーマ 企業の社会的責任（CSR）とは何か（2）</p> <p>②授業概要 長く続いたコロナ禍で、そして度重なる自然災害で、社会的責任を果たしている企業は少なくない。在宅勤務という緊急事態に対応し、文具メーカー「シャチハタ」は電子印鑑の決済サービスを無料開放し、災害時、食料品メーカーや飲食サービス各社は被災者への食料調達に尽力している。その逆に、相反する行為に及んだ企業も多い。それらに対比しながら、社会でクライシスが発生した際における企業の社会的責任について考える。</p> <p>③予習（120分） コロナ禍や災害時に企業が果たした社会貢献活動、及び不正行為についても調べ、具体的内容について発表できるようにしておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認し、企業が果たすべき社会的責任、そして期待されている社会的責任について、事例を用いて自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p>																		
4	<p>①授業テーマ ビジネスと人権（1）</p> <p>②授業概要 営利を目的とした企業活動においても、社会の動きに耳を澄ませ、敏感であることは必須である。それを如実に示した事例が、ユニクロを展開する「ファーストリテイリング」社製の綿シャツが米国で輸入を差し止められた事案である。強制労働など人権侵害によって生産された疑いがあるとの理由だが、ファ社はこの事態にどう対応し、広報活動を通じてどのような措置を講じてきているのかを調べ、ビジネスと人権について考える。</p> <p>③予習（120分） 2021年に人権侵害を指摘されたファ社の対応の推移を調べ、問題点やその後の改善点などを危機管理広報の視点から考えておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認し、企業が危機と向き合い、情報を発信する難しさと大切さを自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p>																		
5	<p>①授業テーマ ビジネスと人権（2）</p> <p>②授業概要 国連が2011年に「ビジネスと人権に関する指導原則」を公表して以来、サプライチェーン（供給網）における人権侵害も企業にとって見過ごせない事態となっている。そうした危機に直面した「味の素」と「花王」のケースを検証し、企業の人権への取り組みについて理解する。</p> <p>③予習（120分） 2014年にタイの水産加工場で劣悪な労働環境が指摘された「味の素」のケースと、インドネシアの農園で児童労働が指摘された「花王」のケースを調べ、その後の対応についてまとめておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認するとともに、多くの企業が自社サイトに人権問題専用コーナーを設け、消費者に対し、具体的な取り組みを公表していること理解し、その目的について考えをまとめておく。</p>																		
6	<p>①授業テーマ ビジネスと人権（3）</p> <p>②授業概要 2019年に職場でのパワーハラスメントを禁止する法律が制定されて以降、企業では相談窓口を設置するなどパワーハラ根絶に向けた取り組みを進めている。法制定のきっかけとなった「電通」の女性新入社員の過労死事案、「トヨタ自動車」の男子社員の自殺事案、さらに元女性自衛官が実名で告発（2022年）した陸上自衛隊のセクハラ事案を検証し、企業（組織）が取り組まなければならない目的と意味について考える。</p> <p>③予習（120分） 授業で扱う3事例について、当時の新聞報道などをもとに調べ、ハラスメントが企業や組織に与えた影響について発表できるようにしておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認し、ハラスメントが企業のレピュテーションに及ぼす影響について、自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p>																		
7	<p>①授業テーマ 内部告発と内部通報制度</p> <p>②授業概要 不祥事の発生を防ぐことが企業のレピュテーションを守る手立てであり、そのため的手段として2006年に「公益通報者保護法」が成立した。しかし、東京五輪汚職事件に問われた「KADOKAWA」をはじめ、23年に発覚した「ダイハツ工業」の品質不正問題、「ビッグモーター」の保険金不正請求のケースでは、内部通報制度が機能不全に陥っていることが明らかになっている。そうした具体的事例における不正発覚に至る過程を検証し、共通する企業内部の諸問題に加え、内部通報制度の課題と問題点を考える。</p> <p>③予習（120分） 授業で取り上げる不正事案について、新聞報道などをもとに調べ、発覚に至る経緯を理解しておくこと。特に「KADOKAWA」のケースについては、調査報告書及び公判廷における供述等をよく読んでおくこと。</p> <p>④復習（120分） 公益通報者保護法の課題と企業の取り組みの現状について、自分の意見をまとめておく。</p>																		
8	<p>①授業テーマ “炎上”事例から（1）</p> <p>②授業概要 2023年には回転寿司チェーンで撮影したとみられる迷惑動画が拡散、炎上するケースが相次いだ。被害企業は動画の拡散を認知してからどのような対応をとっているのか。しょうゆ差しを舐めた少年を提訴（その後取り下げ）した「スシロー」のケースを事例に、SNSや生成AI（人工知能）によって危機の範囲が広がる中で、レピュテーションリスク回避を目的とする企業の対応について考える。</p> <p>③予習（120分） 「スシロー」の迷惑動画への対応、及び同社がSNS上で批判されていた事例を含めて、発表できるようにしておく。</p> <p>④復習（120分） 講義内容を確認し、SNS時代における企業のリスクの幅広さについて、自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p>																		

9	<p>①授業テーマ 炎上事例から (2)</p> <p>②授業概要 通信教育大手「ベネッセ」の情報流出事件では会社トップの発言が厳しい批判を浴びたが、瞬時に情報が拡散するSNS時代においては、企業トップの記者会見における発言が炎上するケースが後を絶たない。なぜ発言は炎上したのかを検証すると同時に、炎上事案を見事に収拾させた「スーパーストックトウキョウ」のケースを比較しながら、炎上に直面した場合の情報発信の内容、及びその重要性について考える。</p> <p>③予習 (120分) 「ベネッセ」「知床観光船」「スーパーストックトウキョウ」の記者会見及び自社ホームページにおける情報発信について調べておく。</p> <p>④復習 (120分) 講義内容を確認し、炎上時の企業広報の対応について自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p>
10	<p>①授業テーマ 新たなリスク (1) 外国人労働者の雇用をめぐる</p> <p>②授業概要 人口減少時代に入った日本において、外国人労働者の受け入れは必須と言われて久しいが、現実には世界から劣悪な労働環境と批判されてきた外国人労働者問題に、ようやく改善の兆しが見えたに過ぎない。ムラ社会の凝り固まった価値観をほぐし、かけ声だけの外国人との共生から脱却するために、企業が講じるべき対応策について考える。</p> <p>③予習 (120分) 外国人との共存・共栄に歩みだしている事例を見つけ出し、そこに至るまでの過程を説明できるようにしておく。</p> <p>④復習 (120分) 講義内容を確認し、外国人労働者問題での対応を誤ることが、企業にとってレピュテーションを低下、喪失するリスクであることを自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p>
11	<p>①授業テーマ 新たなリスク (2) LGBT (性的少数者) 問題をめぐって</p> <p>②授業概要 トランスジェンダー (性同一性症候群) のトイレ使用をめぐる訴訟や、同性婚をめぐる裁判が相次いでいる。身近には新宿区内に設置したジェンダーレストイレを巡っても賛否が分かれるなど、企業は今、ジェンダーを含むダイバーシティ (多様性) への配慮が求められている。今回はジェンダーに関連した企画や情報発信をする場合に注意すべき問題等について考える。</p> <p>③予習 (120分) ジェンダーをめぐる訴訟や諸問題を調べ、何が課題として浮かび上がっているのか、発表できるようにしておく。</p> <p>④復習 (120分) 講義の内容を確認するとともに、「多様性の強要」が散見される状況についても視野を広げ、ジェンダーを取り巻く状況について、自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p>
12	<p>①授業テーマ 新たなリスク (3) 転職時代をめぐる</p> <p>②授業概要 転職希望者1000万人時代と言われる状況下で、営業秘密を持ち出した容疑等で企業トップや社員が逮捕される事件が相次いでいる。これらは同時に、企業の情報管理体制も問われる事態であり、雇用の流動化、情報管理のデジタル化等を背景にした転職時代のリスクについて考える。</p> <p>③予習 (120分) 内部情報の持ち出しが問われたケースを最低3事案について調べ、事件の特徴を把握しておくこと。</p> <p>④復習 (120分) 個人の不正競争防止法違反が、法人にまで及ぶケースを確認し、企業が直面する転職時代のリスクについて、具体的な事例に基づき説明できるようにする。</p>
13	<p>①授業テーマ 新たなリスク (4) 2024年問題をめぐって</p> <p>②授業概要 改正労働基準法が4月から適用され、猶予されていた建設業や運輸業などの時間外労働にも上限が設けられる。これに伴い、商品の販売・流通を運輸業に依存してきた小売り各社では対応を迫られることになる。まさに企業のESG (環境・社会・企業統治) が問われかねない事態である。同法の適用に向けた企業の取り組みを事例に、ヒトと社会にやさしい企業とは、について考える。</p> <p>③予習 (120分) 改正労働基準法が適用されるのを前に、関連する企業ではどのような課題に取り組んできたのか。適用後にはどのような取り組みがみられるのか、について新聞報道などから具体的な事例を調べ、発表できるようにしておく。</p> <p>④復習 (120分) 講義内容を確認し、2024年問題を自分事として考え、企業として、そして個人として何ができるのか、何をしなければならぬのか等々について、自分の言葉で言語化できるようにしておく。</p>
14	<p>①授業テーマ 新たなリスク (5) 人工知能 (AI) をめぐって</p> <p>②授業概要 AIの適切な開発と利用に向けたルール作りが世界中で加速している。特に注目されるのが欧州連合 (EU) における「AI法」である。人権侵害と同様に、EU域内でサービスを提供する外国企業も規制対象であり、日本企業も制裁対象となる可能性がある。企業は今、AI利用についてどのように情報収集し、合法と違法についての感度を高めているのだろうか。ここでは明確な違法行為について認識するとともに、グレーゾーンのケースについて議論を通じて考える。</p> <p>③予習 (120分) 2026年の施行を前に、AI法への対策、及びAI利用の指針を設けている企業を調べ、その目的をレピュテーションリスクと関連づけて精査しておくこと。</p> <p>④復習 (120分) 講義内容を確認し、企業がAIを利用する場合の問題点についてまとめておく。</p>
15	<p>①授業テーマ まとめ試験</p> <p>②授業概要 14回の授業を通じて、レピュテーションを喪失した場合の怖さを認識すると同時に、レピュテーションを向上させることができれば新たな企業価値の創出につながることも理解できたと思う。試験はそうした観点から具体的な事例に基づき、詳述させる内容とする。</p> <p>③予習 (120分) これまでの授業内容をしっかりとまとめて理解しておく。</p> <p>④復習 (120分) レピュテーションリスクについて、自分の言葉で多角的に説明できるようにしておく。</p>
関連科目	「企業広報特講」 (R5MR0020) 「企業リスクマネジメント」 (R5RM0017)
教科書	特になし
参考書・参考URL	安岡孝司 (2020) 『企業不正の調査報告書を読む』 (日経BP) 大槻茂 (2013) 『危機管理と広報』 (彩流社) 勝股秀通 (2020) 「危機管理広報のあるべき姿」 『危機管理学研究第4号』 (日本大学危機管理学部危機管理学研究所) 関連する資料は適宜配布します。
連絡先・オフィスアワー	<p>■連絡先 開講時に伝えます。</p> <p>■オフィスアワー メールで事前にアポイントメントを取ることで、適宜対応します。</p>
研究比率	

